琉球大学医学部保健学科　　　　　　　　　　　　　　　　第25号

同　窓　会　会　報

University of the Ryukyus

令和7年8月4日

琉球大学医学部（令和 7 年 4 月開学）

琉球大学病院（令和 7 年 1 月開院）

◆ 事務局情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

・会長挨拶

・令和６年度同窓会総会の報告

◆ 会員の近況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

◆ 保健学科の近況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

・先達の志を受け継いで ― 新たな地で始まる挑戦

・新任教員紹介

令和７年度 定期総会のご案内

令和7年度定期総会を、下記の日程で対面と Zoom 配信によるハイブリッド方式にて開催します。会員多数のご出席をお待ちしております。直接会場に来ることが難しい方も、ぜひ Zoom でご参加ください。QR コードよりご参加いただけます。

日時：令和 7 年 8 月 30 日（土）

場所：琉球大学 西普天間キャンパス 研究棟 1 階 院生ゼミ室1・2

13:00　開会

13:00～13:25 評議会および定期総会

13:30～14:30 特別講演（質疑応答を含む）

「睡眠ポリグラフ検査・解析の構築」

演者：加根村隆 氏 保健学科 13 期生

（医学博士，日本睡眠学会評議員，

日本睡眠学会専門技師）

14:30～15:00 茶話会 適宜おひらき

＊駐車場は西Ⅱ駐車場をご利用ください

事務局情報

琉球大学医学部保健学科同窓会会長あいさつ

　同窓会の皆様、こんにちは。皆様におかれましては、日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜りまして、誠に有難うございます。この度、前会長の大川嶺子様から微力ながらも会長職を引き継ぐ事になりました。同窓会会長就任にあたり、これまで同窓会活動に尽力してくださいました歴代会長及び役員の皆様に心から感謝申し上げます。まずは簡単ではありますが自己紹介をさせて頂きます。私は 1964 年生、宮古島出身で現在 60 才になります。保健学科は 15 期生になりますが、5 年間で保健師と臨床検査技師の単位習得が可能な旧カリキュラムの最後の学生のため、卒業は 16 期生と一緒になります。さて私の職歴ですが、保健学研究科（修士）修了後は、浦添総合病院で 10 年間、救急 HCU 部で ICU 専属の呼吸療法士として勤務し、その後 25 年間は、豊見城中央病院・友愛医療センターで、ICU を中心に急性期から慢性期、在宅領域と幅広く呼吸循環管理に携わってきました。呼吸療法士という職種はその当時、浦添総合病院呼吸内科医の名嘉村博先生（現名嘉村クリニック理事長）の指導の下、本邦初、名称独占した独自の職種で、米国呼吸療法士の業務を参考に確立してきました。

　業務内容については割愛させて頂きますが、現在は定年退職後再雇用で、豊見城中央病院で週 3 回の睡眠外来を受け持ち、睡眠呼吸障害（特に睡眠時無呼吸症候群）の終夜睡眠ポリグラフ検査に関わり、データ解析、必要に応じた CPAP 導入、教育指導、CPAP 圧の調整と消耗品の提供などを行っています。また週 2 回は友愛医療センターICU で研修医やメディカルスタッフの教育を中心に、呼吸管理アドバイザーとして勤務をしています。職歴はここまでとしますが、歴代の同窓会会長の皆様が築きあげてこられた本同窓会の実績を鑑みますと身の引き締まる思いです。これまで同窓会を牽引してこられ、役員の保健学科諸先生方のお力をお借りして、3 年間の会長任務と同窓会の発展に力を尽くしてまいりたいと思います。また同窓会のネットワークを存分に活用し、会報には同窓会活動や会員皆様のご活躍を報告するとともに、何らかの形で地域医療への貢献の一躍を担いたいと考えています。至らない点もございますが、新役員一同、尽力してまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。最後になりますが、同窓会の皆様におかれましても、これまで以上に同窓会活動に関心を持っていただき、是非とも参画して頂きますようお願い申し上げます。

保健学科同窓会会長　仲間康敏（15 期）

令和5年度決算報告および令和6年度同窓会事業計画

令和６年８月 17 日（土）保健学科棟 210 教室において、上原キャンパスでの最後の総会が行われました。審議された事項の概要は、以下のとおりでした。

令和５年度決算概要　（単位:円）

（1）収入総額	582,594
① 入会費	260,000
② 前期繰越金 他	322,594
（2）支出総額	243,615
① 事業費	199,855
② 運営費	43,760
（3）収支差額	338,979

令和６年度予算概要　（単位:円）

（1）収入総額	538,979
①入会費	200,000
②前期繰越金 他	338,979
（2）支出総額	538,979
①事業費	250,000
②運営費	61,000
③予備費	227,979

令和６年度 事業計画

項 目	内 容
1. 令和６年度保健学科同窓会 総会の開催	定期総会開催にむけた準備、当日の運営
2. 組織の強化	役員会の運営、同窓生との交流・連携強化
3. 会報第 24 号の発行と会員への送付	会報を年1回発行し、会員相互の連携強化を図る
4. 会員名簿の整備	卒業時に就職先等の連絡先を確認し名簿の整理に努める
5. 情報発信と共有の強化	HP の活用で情報の円滑な発信、受信を図る
6. 学生活動への援助	学生の学内外活動の援助を積極的に行う
7. 同窓会会員の勧誘	新入生・在学生および既卒者への勧誘強化

会 員 の 近 況

真っ白な壁と、真っ白な私

今年、琉球大学医学部と琉球大学病院が西普天間にお引越ししました。なんと50年に一度の大イベント！NHKの「ドキュメント72時間」にも登場し、全国デビュー（？）を果たしました。

数年前から始まったこのプロジェクト。「図面が読めない」レベルにもかかわらず、業者さんから次々と図面を渡され、会議に出席する日々。さらに、桁が多すぎて目が泳ぐような金額の話にも巻き込まれ、「これは夢か現実か…」と何度も自問しました。

看護部では、「ここはこうしたい！」「いや、やっぱりこうかも！」と、熱く何度も話し合いを重ね、業者さんにイメージを伝え続けました。最終的には、会議室の壁にイメージ図を貼ってくれるという神対応も。あの瞬間、やっと私のレベルを理解してもらえたと涙が出そうになりました。

そして迎えた新病院。いざ中に入ると、壁が真っ白。私の頭も真っ白。パニックになりながら「ここはどこ？」状態に。半年が経ち、ようやく迷子にならなくなった今、少しだけ成長した気がします。

成長といえば、引っ越し準備がピークだった頃、1日2〜2.5万歩も歩いて少しだけ痩せました。が、すぐに“別の成長”を遂げてしまいました。この成長は止めたかったです。

1月4日の新病院への患者搬送当日は、大きなトラブルもなく、無事に患者さんを搬送できたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

保健学科の階段―学生時代は集合写真、社会人になってからは余興の舞台。顕微鏡とにらめっこした教室、不穏患者役を熱演して抑制から逃げ切った演習室、睡眠学習に最適だった階段教室……そんな思い出の場所はなくなってしまいますが、新病院でも、また新しい思い出ができていくのでしょう。

定年退職を迎えるにはもう少しありますが、「あの頃は大変だったけど、面白かったね」と懐かしく思える日が来ることを、今はちょっと楽しみにしています。

（伊良皆美香　24期）

私は保健学科を卒業後、独立行政法人那覇市立病院にて臨床検査技師として勤務しています。1年目は輸血部門を担当しました、輸血検査では、輸血を必要とする患者さんに対して適切な血液製剤を準備することはもちろん、副作用の有無や輸血効果の確認など、治療の面に関わることができ、大きなやりがいを感じました。この経験を通して、次は診断やフォローアップの面でも患者さんに貢献したいと考えるようになり、今年度は血液部門に所属し、現在は検査データの読み取りや血液細胞の判読について勉強を重ねています。また、採血業務や検診センターでの業務、さらにタスクシフト/シェアといった新たな動きにも対応できるよう、幅広い分野で力を発揮できる臨床検査技師を目指しています。

職場には年齢層の異なる先輩方が在籍しており、日々の仕事や会話から多くを学ばせていただいています。さらに、定期的に同級生と集まり、会話を楽しんだり情報交換したりすることも刺激となり、自分自身の成長への励みになっています。

日々の経験を通して成長し、必要とされる臨床検査技師になれるよう努力していきたいと思います。

（伊波翔悟　52期）

保健学科の近況

『先達の志を受け継いで ― 新たな地で始まる挑戦』

琉球大学医学部保健学科は、戦後沖縄の医療・福祉の復興を担う人材育成のため、1968年に那覇市与儀に保健学部として設置され、1983年には西原町上原へ移転しました。そして2025年、国際性・離島特性を活かした「沖縄健康医療拠点」の形成を目指し、西普天間を舞台に、次代を見据えた挑戦が始まります。

国際化、人材育成、医療水準の向上および先端研究・産業振興など多岐にわたる取り組みが進められており、次世代の医療を切り拓くための大きな節目となるでしょう。その一方で、私たちが学び、多くの時間を過ごした上原キャンパスを離れることには、やはり一抹の寂しさがあります。あの学舎には、多くの出会いと学び、そして成長の記憶が刻まれています。また、保健学科の歴史を築いてこられた諸先輩方への感謝を忘れることはできません。その積み重ねの上に、今の私たちがあります。

保健学科は、包括的保健医療の理念に基づき、科学的思考力と高度な専門性、社会性と人間性、そして国際的視野を兼ね備えた人材の育成を使命としています。この重責を担うことの意味を、私たち同窓生一人ひとりが改めて胸に刻む時期に来ていると感じます。

これからも、保健学科のさらなる発展のために、教育・研究・社会貢献への取り組みに、同窓会会員の皆さまのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

（文責：副医学部長　豊里竹彦　28期）

『新任教員紹介』

◆　形態病理学　与儀翔平　助教　42期

2021年9月より琉球大学医学部保健学科、形態病理学分野に着任した与儀翔平（よぎ しょうへい）と申します。5年間、臨床検査技師として琉球大学病院に勤務し、その間に社会人枠で学位を取得しました。その後、本学に助教として着任し、沖縄県において特徴的な腫瘍について形態学、分子遺伝学、疫学的など様々な観点から分析し、癌治療の一助となるよう研究に励んでいます。未熟ものではありますが、これまでに得た知識や経験を活かし研究や教育に貢献していきたいと考えています。

◆　生理機能検査学　屋宜宣慶　助教　46期

2023年5月より琉球大学医学部保健学科病態検査学講座に着任しました屋宜宣慶（やぎ のぶよし）と申します。2018年に本学検査技術学コースを卒業後、大学院に進学し、2023年3月に博士（保健学）を取得しました。薬剤耐性菌を専門とし、現在は東南アジアの地域や環境における耐性菌の遺伝的特徴や全ゲノム解析の高効率化に取り組んでいます。若輩者ではございますが、これまでに得た技術を生かし高度医療に対応できる人材の育成に貢献していきたいと思います。

◆　基礎看護学　渡慶次道太　助教　39期

2024年4月より、基礎看護学分野の助教として着任いたしました渡慶次道太と申します。2013年に本校大学院を修了後、琉球大学病院に勤務し、感染管理認定看護師として院内外の感染制御に従事してまいりました。現在はその経験を活かし、医学部の特別管理産業廃棄物管理責任者という、ちょっと長い肩書きもいただいております。感染対策の重要性が一層高まる昨今、基礎看護教育の現場でその意義を学生に伝え、実践的な看護力を備えた人材育成に尽力いたします。不撓不屈の精神で、看護教員として看護教育・研究に不惜身命を貫く所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆　地域看護学　高良めぐみ　講師　29期

2024年12月より、保健学科地域看護学分野に着任いたしました、保健学科２９期の髙良です。令和6年11月までは那覇市で保健師として勤務しておりました。着任してまだ約半年で、講義や研究と慣れないことも多いですが、最近は講義をする中で、保健師の面白さや、やりがいを学生へ伝えていけることに楽しさを感じています。公衆衛生看護実習等で保健師さん達に会えるのも楽しみの一つです。緊張した私を見かけたらぜひ、声をかけてください。よろしくお願いします。

琉球大学医学部保健学科同窓会会報　第25号
編集発行　琉球大学医学部保健学科同窓会事務局
〒901-2720　沖縄県宜野湾市喜友名1076番地
E-mail　ryudaihokendosokai@gmail.com
HP　http://www.hsaa.jp